

経営比較分析表（令和5年度決算）

大分県 豊後高田市

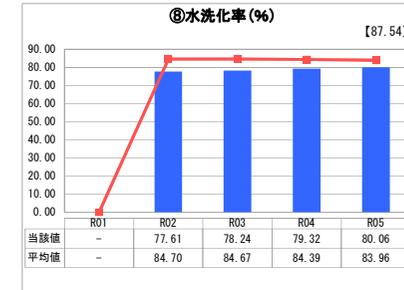
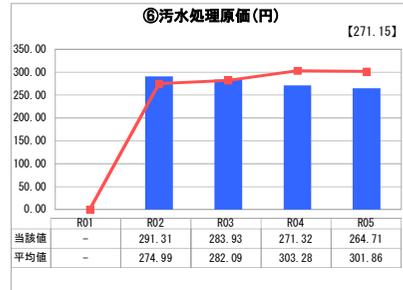
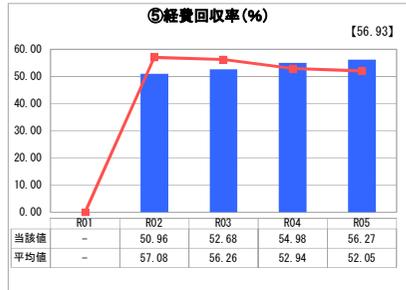
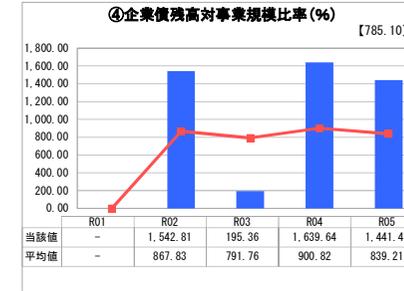
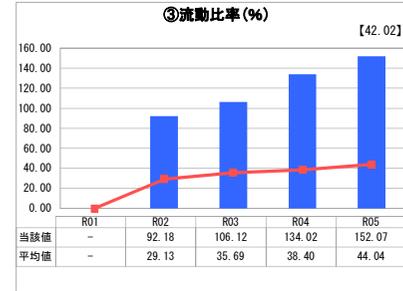
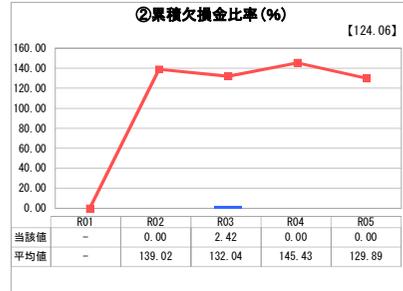
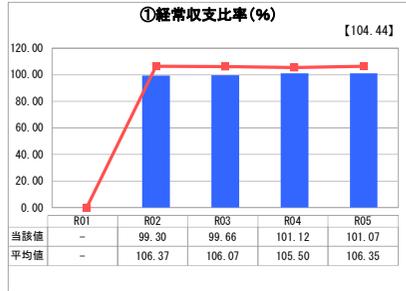
業務名	業種名	事業名	類似団区分	管理者の情報
法適用	下水道事業	農業集落排水	F2	非設置
資金不足比率 (%)	自己資本構成比率 (%)	普及率 (%)	有収率 (%)	1か月20m ³ 当たり家産料金(円)
-	85.73	3.10	83.98	2,940

人口 (人)	面積 (km ²)	人口密度 (人/km ²)
21,960	206.24	106.48
処理区域内人口 (人)	処理区域面積 (km ²)	処理区域内人口密度 (人/km ²)
677	0.43	1,574.42

グラフ凡例

- 当該団体値 (当該値)
- 類似団体平均値 (平均値)
- 令和5年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

① 経常収支比率：経常収支比率は100%以上となり、単年度の収支が赤字となっていないものの、事業規模が小さく、使用料収入によって、施設の修繕費や維持管理費及び企業債支払利息等が隔年におらず、一般会計からの繰入金に依存している状況となっています。

② 累積欠損金比率：一般会計から繰入金により、類似団体と比較すると低くなっています。

③ 流動比率：流動負債は、主に建設改良に充てられた企業債の元金償還等となっているものの、広域化により特環との統合を予定しているため、必要最低限の改修により維持管理費が低減され流動比率の上昇となりました。

④ 企業債残高対事業規模比率：企業債償還に対して一般会計より基準内での繰入ができなかったため比率が上昇しました。

⑤ 経費回収率：特環との広域化を見据え、必要最低限の改修により維持管理費が低減され、経費回収率が上昇しました。

⑥ 汚水処理原価：必要最低限の改修により維持管理費が低減され、汚水処理原価が前年より抑えられました。

⑦ 施設利用率：平成16年度に施設整備事業が完了し、60%程度となっており、類似団体と比較するとやや高い状況となっています。

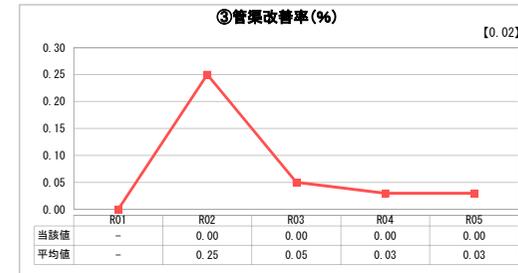
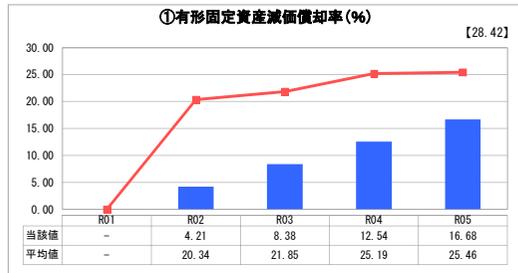
⑧ 水洗化率：人口減により水洗化率が伸び悩み80%程度となっており、類似団体と比較すると低い状況となっていますので、今後は普及推進活動等が必要となります。

2. 老朽化の状況について

① 有形固定資産減価償却率：事業の開始時期が平成10年で、現在のところ更新が必要となる資産はありませんが、耐用年数を考慮し、今後の更新計画を策定する必要があります。

② 管路老朽化率、③ 管渠改善率：事業の開始時期が平成10年で、現在のところ更新が必要となる管渠はありませんが、耐用年数(50年)を考慮し、今後の更新計画を策定する必要があります。

2. 老朽化の状況



全体総括

集落排水施設の整備は、平成16年度に完了し、水洗化率は、徐々に増加しているものの80%と低迷しています。今後も快適な住環境を維持するため、令和11年度には、隣接する特定環境保全公共下水道との統合を予定しており、施設の施設更新や維持管理に係る経費の低減化を図っていくこととしています。

※ 「経常収支比率」、「累積欠損金比率」、「流動比率」、「有形固定資産減価償却率」及び「管路老朽化率」については、法非適用企業では算出できないため、法適用企業のみ類似団体平均値及び全国平均を算出しています。